

## 山はめぐりて

5月中旬、10周年バスハイクで弥三郎岳に上った。芦安の清水君も参加した。清水君が帰りにこの春、竣工した「芦安山岳館」に是非、寄って行ってくれと言う。「時間があれば・・・」と答えたが、私は行きたかった。実は山岳館とは、意外な接点があったのだ。

「菅野唯雄」さん。久し振りに聞く、懐かしい名前だった。私が勤務する会社の元山岳部部長。会社は大分以前、定年前に退職し、数年前、他界した。皆には「ターちゃん」と呼ばれた。

私が入社し山岳部に入り、登山を始めた頃、山に連れて行ってくれた人だ。器用な方で、カメラバックを運ぶ木製の背負子を作ったり、まだワープロなど無い頃、綺麗で綿密な計画書を書いた。

山は当時としては、行っていた方だと思うが、たまたま、家に遊びに行った時、押入れの奥から「絹のザイル」を出して見せてくれた。本当にそんな物を使ったのか不思議な感じだった。

先日、山岳部の先輩がやって来て「芦安山岳館に行ったか」と言う。何だと質すと「あそこに、ターちゃんの背負子と靴が展示してある」と言う。「エー、本当」そこで、久し振りに「菅野」さんの名前を聞いたのだ。山岳館を作る事は知っていた。ただ、何故「菅野」さんがの疑問はあったが、すぐ分かった。

以前、お世話になった北岳・広河原山荘の塩沢久仙さんが仕掛け人だった。塩沢さんは山岳館建設に深く関わった。そして、塩沢さんがまだ、夜叉神峠小屋にいた頃、「菅野」さんと懇意になり、今回、奥様の夏子氏に展示の依頼をしたのだ。

同じ会社の同じ山岳部で私は全くそんなことは知らなかった。まだまだ、大きい面は出来ないと思った。